

協立なないろだよい



薬剤科

元気で過ごせるように



2023年8月 NO.9

新居浜協立病院

医療福祉相談室発行

薬剤科では退院後も元気で過ごせるように、入院中に自宅で内服しやすいように薬の調整を行っています。入院時の残薬の状況を見て、昼の薬が多く残っているようなら1日2回に調整するなど、なるべく飲み残しがないような内服調整の提案をします。又、睡眠剤が効きすぎて日中の活動が困難な場合などは、リハビリとも連携し、中止や安全な眠剤への変更を検討しています。

病室訪問

病室を訪問して、薬の説明、状況の確認、入院前の服薬の確認などを行い、入院中に必要な調整があれば、提案できるようにしています。



医師～多職種連携 －薬剤適正使用重視－

近年、薬剤が多いことで起こる弊害が高齢者に置いて問題視されています。薬剤の適正使用の観点から、病棟のカンファレンスに参加して多職種での議論を大事にしています。



薬剤師

医師も参加

薬をただ減らすというのではなく、検査値をチェック、薬の量が過剰でないか、副作用が出ていないか確認、医師と密に連携しています。



医師

薬剤師

薬剤について医師と相談中

調剤風景

薬剤科での風景です

注射セット中



調剤中



学習会の講師活動



看護師を始め多職種に対して
医薬品、安全使用について学習会の講師を行っています。
地域の方に対して、医療生協の組合員
さんの集まり、市民講座にも出かけています。



市民講座にも登録！
地域のシニアクラブで薬の話

中学生職場体験

受入れ実施をしています。
手前2名が中学生です。



かかりつけ薬局との連携

「退院時薬剤管理サマリー」

入院中に行った内服調整についてかかり
つけ薬局に情報提供行う。当院では薬剤
の調整がなくても、入院の経過や治療内
容、療養生活等の情報提供実施。



施設の方へ

胃ろう：簡易懸濁を



- 胃ろう等からの医薬品投与を行う場合、錠剤を粉砕して水に溶かして投与することがあり。
- 医薬品の多くは水（55℃のお湯）に懸濁（けんだく）するようにできている。
- 錠剤は飲み込む→消化管の中で崩壊、吸収。
- 消化管でなく外で行うのが簡易懸濁という方法。
- ★コーティング剤の懸濁しにくい薬は上から少し叩き、錠剤に亀裂を入れると崩壊しやすい。

◎当院は発表された翌年 2002 年から実施。

愛媛県で1名のみ

老年薬学 石井認定薬剤師

高齢者が安心して暮らせるように、薬
物療法の観点から支援をしています。

